



小学 1 ～ 2 年生に対する支援

1. 小学1～2年生に対する支援

(1) 早期発見, 早期支援の重要性

小学校低学年の時期は、本格的に読み書きの学習が始まり、読み書きの困難さが顕在化する時期です。しかし、「学業不振が顕著になってから対応する」という方法では、支援の開始が遅れてしまい、学習意欲の減退だけでなく行動面の問題の発現や学校不適応状態に陥ることもあります。このような二次的な不適応を防ぐためには、読み書きが困難な児童の早期発見・早期支援が重要になります。

(2) 通常の学級に在籍する児童全員を対象とした取組

近年は、通常の学級で児童全員の習得状況を簡易なアセスメント検査によって把握し（次頁の「**ステップ1**」）、つまずきが確認された児童には迅速に指導・支援を行う（次頁の「**ステップ2**」）取組が各地で実践されています。学習面における困難さが顕著になる前に対応することで、児童の自尊感情の低下を最小限に抑えることができ、学習の基礎となる読み書きのスキルを底上げすることができます。また、困難さが軽度の場合には、これらの取組を行うことでつまずきが解消されるケースも多くあります。ここでは、「多層指導モデル MIM」, 「T式ひらがな音読支援」（従来の「鳥取大学方式による音読指導」）について紹介します。

支援・指導方法	掲載内容	ページ
多層指導モデル MIM	多層指導モデル MIM とは アセスメント (MIM-PM) の紹介 東京書籍「動画で分かる！特殊音節指導の工夫」の紹介 MIM デジタル版の紹介 MIM を活用した指導例 (坂井市立高椋小学校)	p.29～
T式ひらがな音読支援	T式ひらがな音読支援について 鳥取市における取組の紹介 ディスレクシア読指導アプリの紹介	p.38～

(3) 読み書きに著しい困難さを示す児童への対応（次頁の「**ステップ3**」）

上記の対応を行っても、読み書きに重度の困難さがある児童に対しては特化した指導（ステップ3）が必要になります。学年が進むにつれ、漢字やアルファベットの習得にも困難さを示すことも多く、継続したサポートが必要です。これらの児童に対しては、保護者とも実態を共有した上で個別のアセスメントを行ったり、困難さの背景要因に応じた個別の指導プログラムを実施します。それらの指導と並行して、必要に応じて課題の調整や合理的配慮の検討もおすすめしましょう。通常の学級における配慮も重要です。

低学年における3段階の読み書き支援

ステップ1

通常の学級で使える全児童を対象とするアセスメント

- ◆MIM-PM (p. 31-33)
- ◆T式の音読確認 (p. 38-42)
- ◆スマイル・プラネット版
読み書きスキル簡易アセスメント
(p. 144-145)

通常の学級の 全児童



ステップ2

アセスメントに基づいた早期指導

- ◆MIMの印刷教材 (p. 29-)
- ◆MIM デジタル版 (p. 35)
- ◆T式ひらがな音読支援 (p.38-42)
- ◆ひらがな指導アプリ (p. 43)

※早期指導により、つまづきが解消されるケースが多い

読み書きに軽度の 困難を示す児童



ステップ3

個々の苦手さに応じた 指導・支援

- ◆キーワード法 (p. 44-46)
- ◆50音表を使った指導 (p. 47)
- ◆50音表を使った書字指導 (p.48)
- ◆各種アプリの活用 (p. 49-59)
- ◆プレ漢字プリント (p. 60-62)
- ◆マルチメディアデジー教科書の活用 (p. 66-67)
- ◆補助代替手段の活用 (p. 68-69)
- ◆事例紹介 (p. 72)

※「通級による指導」の活用も含め、長期的な指導・支援が必要になるケースが多い

読み書きに 著しい困難 を示す児童

(例:ひらがなの
習得が困難)

(4) 読み書きに著しい困難さを示す児童への個別指導の実際

原惠子先生は参考文献¹の中で、低学年の児童への指導について下記のような内容を述べておられます。これらは、学校での指導プログラムを検討する際にも参考になります。

指導開始にあたって

- ・指導を始めるにあたっては、その子についていろいろな角度から情報を集めて、全体像をとらえたいので、指導の方針や方法を考えることが大切です。
- ・知能検査から得られる全般的な知的な力をはじめ、能力に偏りがあるか、強い能力は何か、読みの他に弱い能力は何か、読みの問題の重さの程度、読み以外の言語の力（例えば、語彙力、言語理解力、聴覚的な記憶力、新しいことばを学習する能力、言語で表現する能力）はどのくらいか、どんなことに興味・関心をもっているのか、将来の進路についてどんな希望があるのか、子ども自身は自分の読みの問題をどう考えているのか、などから子どもの全体像をとらえます。
- ・子どもの読みの問題を家族や担任はどうとらえて、どう接しているのかなど、家族や子どもを取り巻く環境についての情報も重要です。
- ・子どもはほとんどの場合、読みの困難さを自覚し、クラスメートと比較して自分の読みが劣ることを知っています。自分の読めない姿をさらしたくないという思いをもっています。そうした思いを、子どもみずから語ることはあまりありません。子どもの思いを推測し、それに寄り添って、少しずつでも向上していることが実感できるように配慮して、子どもの自己有能感を支えることを考えます。
- ・低学年で読みの困難さが重く、ひらがな単文字の学習でつまづく場合は、「キーワード法」などを用いて単文字の学習から始めます。読み障害が軽く、高学年になって漢字の学習のつまずきで気づかれるような場合は、漢字の熟語や文章の読みから指導することもあります。
- ・読みの指導は、多くの場合、長期間にわたります。学業以外の子どもの得意なことなど、情報を家庭・学校と共有しながら、子どもの自尊感情を大切に、かかわりをつけます。

指導のねらい

- ・指導の目標は個々の子どもの状況によって異なりますが、**低学年**では流暢に正確に読めるようにすることを目指します。たどたどしい逐次読みでは、読んだものが意味に結びつきにくいからです。
- ・**高学年**では、どの教科でも読み書きの分量が増え、より高度な力を求められます。ディスレクシアの子どもは、正確に読むことはできるようになりますが、読むスピードの向上は緩やかです。高学年では、読みのスピードの改善を目指すよりも、代替手段を活用して、情報入手を確実にすることに比重が置かれることが増えます。タブレットや読み上げソフトをはじめとするさまざまなICT活用の習得などです。

¹ 原惠子. 2016. 読み書きに難しさがある子どもの事例と指導の実際 (1) 小学校低学年. 加藤醇子. 『ディスレクシア入門「読み書きのLD」の子どもたちを支援する』. 日本評論社. pp.107-118

(5) 自己肯定感の低下を防ぎ、自己理解を深めるために

読み書きに困難さがある児童は、クラスの大多数の児童がスラスラとできる課題が、自分だけとても時間がかかる経験などを通して、自己肯定感が低下しがちです。また、学習そのものを嫌いになりやすい傾向があります。自分の長所と困難さを理解し、困難さに対しては効果的な対処法を身につけることができるように導きたいものです。

また、合理的配慮などの特別な対応は、「自分だけずるいことをしている」など、マイナスの自己評価につながってしまうこともあります。学習の本質を保ちつつ、自分に合った学習方法に調整すること(例えば、書字に困難がある児童に対して、書字の負担を軽減し本質的な学びを保障するために、算数の問題は教師が代筆して本人は答えを書くだけしたり、漢字の宿題をプレ漢字プリントに変更したりするなど。詳しくは、p.72 の事例参照)は、決してずるいことではなく、むしろプラスに評価されることであることを理解させたいものです。



(6) 個別の指導(支援)計画の作成

ステップ3のような指導を行う場合や合理的配慮を実施する場合は、学校と保護者が指導や支援について話し合う場を設け、決定した内容を個別の指導(支援)計画に記載するようにしましょう。一定期間後に、評価をし、支援を見直すことも重要です。



(7) 他の児童への理解啓発

個に応じた合理的配慮をすすめようとするときに、多くの学校ですぐに直面する課題が、他の児童にどのように説明するか、という問題です。合理的配慮は、ともすれば他の児童にとって好奇の対象になりやすく、いじめやからかいのきっかけとなることもあるので、周囲の児童の理解をきちんと得ておきたいものです。「どのような学級でも、これを話せば大丈夫」というような模範解答は存在しません。学級の実態や発達段階を踏まえて、他の児童の納得を得ることができる説明を行っていくことが求められます。合理的配慮をスムーズに提供するためには、障害の有無に関わらず、一人一人の多様性を受け入れることができる毎日の学級集団づくりがベースになります。それらの取組を通して、配慮を受けることになる児童が、配慮を受ける際の心理的な抵抗を軽減されるようにしたいものです。



なお、他の児童に説明する際には、本人や保護者の意向を尊重することが大切です。教師と本人、保護者の思いにずれがある場合、学校と家庭の信頼関係にヒビが入ってしまうこともあります。どのような言葉で説明するか、本人も同席のもとで話をするのかどうかなど、事前に入念な確認を行い、イメージを共有しておくことが求められます。

小学1年～2年

(2) 通常学級の全員を対象としたアセスメントと指導 ①

多層指導モデルMIMを活用した特殊音節の指導

(<http://forum.nise.go.jp/mim/> より)

多層指導モデルMIMとは？

MIMは、Multilayer Instruction Modelの略で、多層指導モデルという意味です。多層指導モデルMIMで、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していきます。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことをめざしています。基本的には以下のような3層構造になっています(図1)。

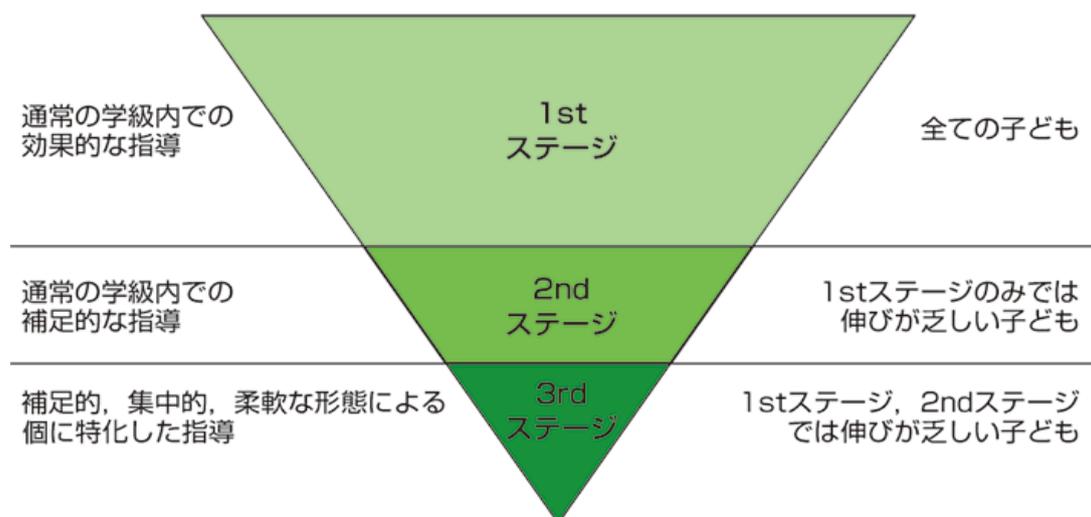


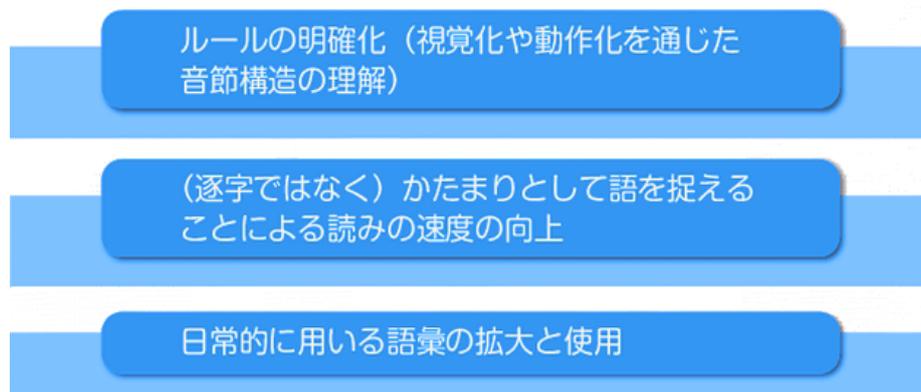
図1 通常の学級における多層指導モデルMIM

1stステージでは、通常の授業の中で、質の高い、科学的根拠に基づいた指導 (p.20 参照) を、全ての子どもに対して実施します。

2ndステージでは、1stステージによる効果的な指導を受けてもなお、伸びが十分でない子どもに対し、通常の授業に加え、その他の時間帯等も使いながら補足的な指導を行っていきます。

3rdステージでは、それでも伸びが乏しい子どもに対し、より個に特化した集中的な指導を実施していくものです。なお、こうしたニーズは、定期的なアセスメント (MIM-PM : p. 31-33 参照) の結果をもとに判断していきます。

MIM の指導パッケージでは、仮名文字の学習でつまずきやすい課題である「特殊音節」の習得を全ての子どもが確実に遂げていくことをねらっています。「特殊音節」のつまずきについては、多くの子どもにとっても初めはつまずきやすい課題といえるため、逆に、当初はつまずいていても、「理屈ではなく、繰り返し行うことで、そのうち習得されるであろう」ととらえられがちです。しかし、特殊音節につまずきを示すには理由があります。それは、日本語の仮名文字は、基本的に一文字一音節で対応できる中、そのルールが適用されないのが特殊音節だからです。そこで、「経験や繰り返し」のみに頼るのではなく、子どもに明確な特殊音節に関するルールを伝えていくことが重要です。MIM では、3つのポイント(図2)に沿って指導法・教材を開発し、明瞭にかつ、体系的な指導をめざしています。



参考情報

多層指導モデルMIM「読みのアセスメント・指導パッケージ」

編・著：海津亜希子氏（国立特別支援教育総合研究所主任研究員）

発売元：学研

価格：本体 18,000 円＋税

主な対象：小学校1・2年生

セット内容：A4判冊子3冊，A6判カード154枚，CD-ROM1枚

- ・読みのつまずきを発見するための「MIM-PMアセスメント用プリント」11回分
- ・読みのルールを視覚的に提示するための「ルール説明用カード」
- ・MIM-PMアセスメント用プリント集と連動した「ことば絵カード」
- ・その他の豊富なプリント類
- ・CD-ROMには、各種プリントのデータ(pdf)やアセスメント集計用のMS-Excelファイルが収録されています。



アセスメント

MIM-PM (めざせ よみめいじん)

(多層指導モデル MIM のホームページ <http://forum.nise.go.jp/mim/> より)

MIM-PM とは？

MIM-PM (Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring) は、学習が進んでいくにつれ、つまずきが顕在化する子どもを、つまずく前の段階で把握し、指導につなげていくためのアセスメントです。全ての学習領域に影響し得る早期の読み能力、特に特殊音節を含む語の正確で素速い読みに焦点を当て、計2分で実施します。集団でも実施することができます。また、一度でなく、継続的に実施することで、子どもが真の能力を発揮する機会が多く得られるとともに、子どもの伸びについても把握できます。

MIM-PM の構成

構成は、テスト①「絵に合うことば探し (3つの選択肢の中から絵に合う語に丸をつける課題) (図3)」とテスト②「3つのことば探し (3つの語が縦に続けて書いてあるものを素速く読んで、語と語の間を線で区切る課題) (図4)」の2部です。

テスト①では、正しい表記の語を素速く認識できる力をみています。正答以外の選択肢には混乱しやすい要素が入っています。



図3. テスト①「絵に合うことば探し」



図4. テスト②「3つのことば探し」

テスト②は、逐字ではなく語を視覚的なまとまりとして素速く認識できる力をみるものです。日本語の文章では、単語間にスペースがないので、読みにおいては、まずは正確で速やかな単語認識の力が必要とされます。

テストの最後には、「みんなのこときかせて」という質問に答えることになっています（「問題は難しかったか」「問題は楽しかったか」「この前と比べて得意になったか」「読むことが好きか」「読むことが得意か」）。MIM-PMの得点と合わせて、こうした子どもの自分自身の読みに関する思いを聞くことは、その後の指導・支援を進めて行く際にも非常に参考になります。

MIM-PMの結果と活用

MIM-PMの結果は、クラスレポートや個人レポートとして表されます。

クラスレポートでは、クラスの子どものMIM-PMの結果を得点順に示すことで、クラスの子どもの相対的な位置の把握、支援を必要とする子どもの明確化、クラス全体としての習得度の把握を促します。各得点結果(テスト①の得点, テスト②の得点, それらを合わせた総合点, 前回と比較しての伸び(差)), 各得点のクラス平均が示されます(図5)。

氏名	テスト 総合点	テスト① 正答数	テスト② 正答数	前回との 比較
はなこ	40	17	23	1
たろう	35	16	19	8
まさお	32	14	18	0
みきえ	27	18	9	7
だいすけ	24	12	12	-1
あやこ	18	12	6	6
けんじ	17	10	7	4
みほ	16	9	7	3
なおこ	14	8	6	-1
いちろう	13	6	7	-1
やすお	11	7	4	-1
ひであき	9	5	4	1
平均	21.3	11.2	10.2	2.2

図5. MIM-PMの結果が掲載されたクラスレポート

【MIM-PMの結果を活かした指導例】

- ・下位の子どもに対して個別的な指示を補ったり、確認したりする等の特別な支援を行う
- ・席替えの参考にする
- ・下位の子どもの指導は、他教科を含めてさまざまな場で行う
- ・クラス全体に対して、明確に指示を出す等、授業の改善を行う

・MIM-PMの結果を処理するためのMS-Excelファイルは、MIMパッケージの付属CD-ROMに収録されています。

・MIM-PMの1回目(pdfファイル)は、MIMホームページからダウンロードできます。

http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=29

Webサイト

「動画で分かる！特殊音節指導の工夫」 東京書籍

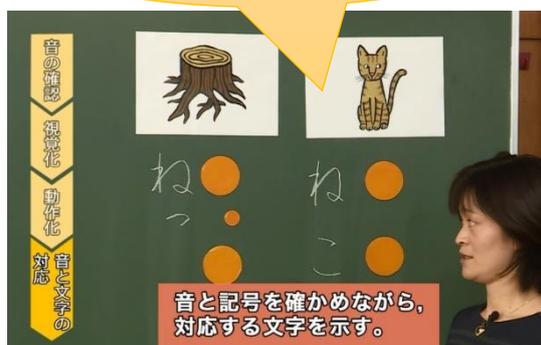
平成27年度版の東京書籍「小学校1年生 国語」の教科書（福井県内には採択地区なし）には、MIMの指導法の一部が引用されました。視覚化や動作化を一斉授業の中でどのように伝えるとよいか迷うという先生方の声を受けて、「動画で分かる！特殊音節指導の工夫」が作成されました。ここでは、「促音の指導」「長音の指導」「拗音の指導」「日常的な指導の取り組み」が、それぞれ4分～11分間の模擬授業の動画として収録されており、通常の学級におけるMIMの指導のポイントが解説されています。それらの動画は、下記の東京書籍のWebサイトから視聴することができます。

https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2016/2016059861.htm

＜Webサイトの掲載内容より＞

促音（小さい「っ」）や長音（「ばあ」など）、拗音（「しゃ」など）といった特殊音節の読み書きは、つまり児童が多い学習の一つです。反復練習で経験的に身につけることを期待するだけでは定着が不安定で、つまりが高学年まで継続してしまう可能性があります。そこで、児童にとって学びやすい特殊音節の指導法を実演でご紹介します。

通常の学級における「促音」や「拗音」の一斉指導の際の参考になります。



- ・ 監修：国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子
- ・ 指導実演：東京都公立小学校主任教諭 栗原光世

内容	PDFファイル	判型, ページ数
動画で分かる! 特殊音節指導の工夫	(920KB)	変形B5判, 5ページ

動画のタイトル	動画を見る	ダウンロード用(ZIP)	再生時間
① 促音の指導～ねことねっこ～		(16.1MB)	4分59秒
② 長音の指導～おばさんとおばあさん～		(41.6MB)	11分00分
③ 拗音の指導～いしゃといしゃ～		(19.7MB)	5分55秒
④ 日常的な指導の取り組み		(13.1MB)	4分32秒

東京書籍（株）国語編集部 2016年5月作成

ICT教材

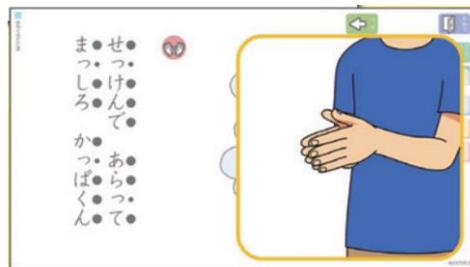
「MIM デジタル版」 学研プラス

(Web上のパンフレットより)

http://forum.nise.go.jp/mim/?action=common_download_main&upload_id=166

＜MIMデジタル版の特徴＞

- ① 苦手な課題でも視覚化や動作化、音声化など ICT を活用した多感覚的なヒントが用意され、必要に応じて使うことができます。
- ② 達成度が確認でき、モチベーションの向上が期待できる仕掛け(島の探検)が用意されています。
- ③ 指導者の個別対応への時間など、指導環境の確保が難しいときでも指導の提供ができます。



＜MIMデジタル版トレーニング内容＞

ことば絵カード	絵を見て、あてはまることばを選ぶトレーニングです	特殊音節
聴くトレーニング	音声を聴き、合ったことばを選ぶトレーニングです	
さんかくシート	拗音を音声と2つのことばの変化で確認します	
書くトレーニング	タブレットPCになぞり書きをするトレーニングです	
促音トレーニング	ことばのどこに促音を入れるかを選ぶトレーニングです	
ことばさがし	かくれているいくつかのことばを見つけるトレーニングです	かたまり読み 語彙拡大
はやくちことば	同じ特殊音節を集めた「はやくちことば」を音声や動画で確認できます	
これ、しってる?	絵を見て、何のことばかを当てます	
総合トレーニング	「よみめいじん」のかたまり読みのトレーニングができます	

2018年1月の改訂版ではMIM-PM アセスメント機能(よみめいじん)も追加されました。

＜動作環境＞

Windows

動作OS : Windows7/8.1/8.1pro/10 ストレージ : 300MB 以上

※「書くトレーニング」でのタッチ操作が可能なタブレット端末等が推奨されます。

iPad

動作OS : iOS 9.3 以降

＜MIMデジタル版に関する問合せ先＞

(株) 学研プラス TEL : 03-6431-1293

福井県特別支援教育センターでは、MIM デジタル版がインストールされた指導用パソコンのデモや貸出を行っています。詳しくは電話にてお問い合わせください。 Tel : 0776-53-6574

県内の実践紹介

MIM を活用した指導例 (坂井市立高椋小学校)

H28 年 9 月 取材

指導の経過	ポイント
<p>・10月の朝読書の時間に、1年生の全児童を対象に各教室にて MIM-PM アセスメントを実施(所要時間は約15分)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>れんしゅう</p> <p>② 3つのことばを みつけよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>れんしゅう</p> <p>① えに あう ことばを みつけよう</p> </div> </div>	<p>・通常の学級のすべての児童を対象に読みの流暢性・正確性に関するアセスメント(MIM-PM アセスメント)を実施する。</p>
<p>・特別支援学級担任が集計を行い、拗音や促音の処理に苦手さがある児童を各クラス10名程度抽出。</p> <p>・当該児童の保護者宛に「朝の MIM 指導」についての案内文書を配付した上で、担任が電話にて参加希望の有無を確認する。</p>	<p>・特別な場での指導は保護者の了解を得て実施する。</p>
<p>・10月より、朝読書の時間(20分間)に週に1度、特別支援学級担任が別室にて MIM の教材を使いながら集団指導を実施。木曜日には1年生、金曜日には2年生が参加する。各学年とも20~25名の児童が参加。</p> <p>・20分間の間に、全体でのゲーム形式の活動やペアでの活動、児童それぞれのペースで取り組む活動などを組み立てて、テンポよく実施する。</p>	<p>・参加する児童が楽しく通えるための工夫が大切。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・各学期末に再度、MIM-PM アセスメントを実施。改善された児童は「朝の MIM 指導」を卒業。卒業のタイミングは各学期末で、3年生の1学期末で全員が終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアセスメントを実施し、経過を確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ・その後も継続的な指導が必要な児童は、「学びの部屋」※でのフォローや通級による指導の検討につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な指導が必要な児童へのフォローを行う。

※「学びの部屋」について

高椋小学校では、「朝の MIM 指導」の他に、「学びの部屋」とよばれる朝の指導を行っています。これは、校長、教頭、教務主任、TT加配の教員など無担の教員が、国語や算数の学習上のつまずきが顕著な児童(1～6年まで、各学年2～3名程度)に対して指導する取組です。週に3日、朝読書の時間に行われています。指導内容は、児童が苦手な領域や当該学年の学習で取り組みそうな内容など、学級担任と相談して決めています。「朝の MIM 指導」がなくなる3年生の2学期以降に、「学びの部屋」で学習する児童や、両方の指導を同時に受ける1・2年の児童もいます。



朝の MIM 指導の様子 (1年生)



朝の MIM 指導の様子 (2年生)



学びの部屋の様子 (3・4年生)



学びの部屋の様子 (3・4年生)

小学1年～2年

(2) 通常学級の全員を対象としたアセスメントと指導 ②

T式ひらがな音読支援 (旧 鳥取大学方式)

(鳥取市ウェブサイト および 鳥取市教育センター作成の資料より)

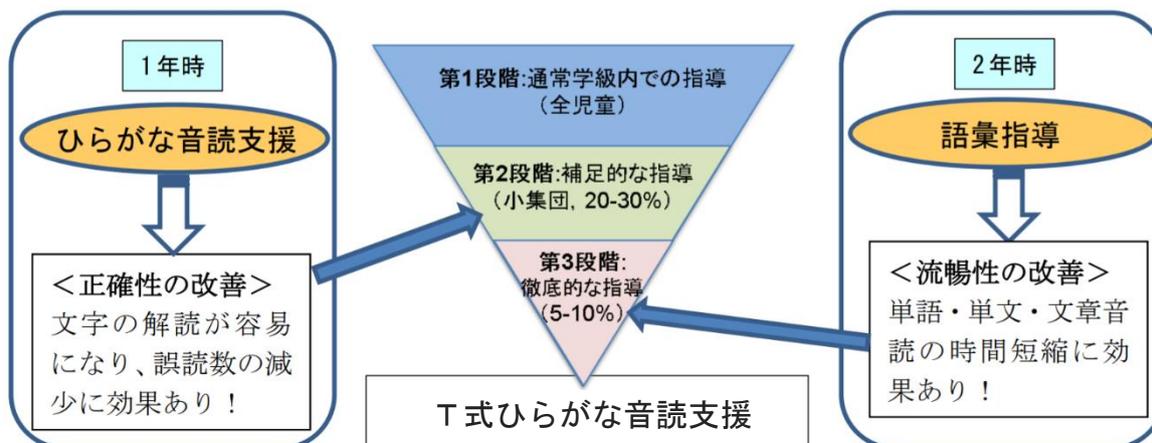
<http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1439281286688/index.html>

T式ひらがな音読支援とは？

鳥取市では、平成26年度より、市内の小学校の全1年生を対象に、RTIモデル²を活用した「T式ひらがな音読支援 (旧 鳥取大学方式³)」に取り組んでいます。

「ひらがな音読支援」は、年3回の「音読確認」でひらがな読みの定着状況を評価し、各時期における基準に満たない児童に対して、タブレット等を使用した音読支援⁴を行います。最終的に十分な効果が得られなかった児童については、2年時で鳥取大学が開発した「語彙指導」等、個に応じた支援を検討し実施します。

この取組によって、読みの苦手な児童が、学習への抵抗感を感じて自己肯定感を低下させる前に手立てを講じ、学校不適応の未然防止や学力の向上につなげることをねらっています。



適用学年

小学校低学年を対象として作成されています。

² アメリカで取り入れられている学習障害の判定方法の一つで、大部分の子どもに有効な指導支援を行いながら伸びを評価し (第1段階)、効果を確認めながら支援方法を追加更新していく (第2・3段階) ものです。

³ LDの「読み」に焦点を当てて2012年よりRTI (Response To Intervention) モデルを活用した指導支援を行ってきました。

⁴ 音読支援のアプリが公開されています。詳細はp.43参照。

検査と指導の構成 (平成 26 年度～ 鳥取市における取組)

<第1回 音読確認：6月>

6月に1年生全員を対象として、「音読確認」を行います。拗音や拗長音はまだ学習していない時期であるため、清音・濁音・半濁音で構成された「直音連続読み」の検査を教師と児童が1対1で行います。一人当たり3～5分必要です。

を	ろ	そ	ふ	あ	ほ	か	ゆ	る	お	は	べ	け	ぱ
う	ひ	ね	ぎ	ぬ	つ	も	で	ぼ	せ	め	や	ぜ	て
け	ぱ	ぞ	と	ぱ	じ	ぜ	あ	き	げ	び	ぎ	ろ	か
ぜ	て	さん	しく	て			が	の	ふ	つ	こん	を	
ろ	か	ぼ	び	で	づ	ぶ	く	ち	ど	づ	ひ	れ	う

ひらがな150文字のシート
1分間で何文字読めるかを計る



【検査方法】

- ・150文字の確認シートを児童が音読し、教師が誤読や未読などを記録します。
- ・音読用シートおよび記録用紙は巻末 (p. 157～) 参照 (3枚を貼り合わせて使用)
- ・教示

子どもの前にひらがなシートを置く。

「ここに書いてあるひらがなを、縦に、このように(指で2行目あたりまでたどって見せて)、声を出して順に読んでください。時間を計るので、間違えないように、できるだけ速く読んでください。分からないものはとばしてもかまいません。『おわり』と言ったらやめてください。では、始めます。『スタート』」

「スタート」と言って手を離れたときにストップウォッチを押す

※ 子どもが読み始めてからではない

【検査結果の処理と指導】

この音読確認で、読めた文字数が基準に満たなかった児童(1分間に読めた文字数が54字以下)に対し、タブレット端末のアプリ(p. 43)を活用した音読支援の指導(1日5分の指導を21回)を行います。鳥取市では、約10%の児童が対象となりました。アプリは、iOS・Android用に無償で公開されているので、夏休みに家庭のタブレットやスマートフォンで取り組むことも可能です。




1日5分間(21回)実施
 昼の掃除時間～5校時始まりまでの間の10分間のチャレンジタイムや放課後を利用して個別指導

<第2回 音読確認：11月>

11月に再度、1年生全員を対象として、「音読確認」を行います。6月と同様の「直音連続読み」に加えて、拗音も加えた「単音連続読み」の検査も行います。

【検査方法】

- ・直音連続読みに関しては6月と同様に実施
- ・単音連続読みの音読用シートおよび記録用紙は巻末（p. 157～）参照，教示は前回と同様

は	び	げ	い	り	び	ぜ	じ	と	よ
み	て	び	お	ぼ	に	え	ら	に	ず
ぬ	ぎ	お	び	じ	か	き	ち	そ	ぎ
し	ぐ	しゃ	き	つ	ひ	さ	べ	し	に
ち	の	が	ま	ぶ	じ	り	れ	く	び

ひらがな50文字のシート
音読時間を計る(少数第2位まで計測)



【検査結果の処理と指導】

音読確認で基準に満たなかった児童（直音連続読み検査において1分間に読めた文字数が70字以下，単音連続読み検査において未習得文字数が6個以上，音読時間が63秒以上）に対して，タブレット端末のアプリを活用した音読支援の指導（1日5分の指導を21回）を行います。鳥取市では，約8%の児童が対象となりました。

第2回 ひらがなよみ がんばりカード

()小学校 ()組 出席番号()

5分かん れんしゅうできたら、わくの中にしるしをつけて、きろくをかきましょう。



(参考) 鳥取市教育センター作成の資料より



<第3回 音読確認：1月>

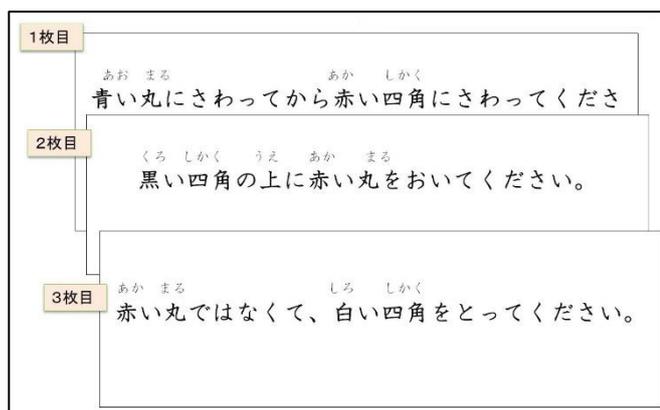
1月に再度、1年生全員を対象として、「音読確認」を行います。11月に行った「単音連続読み」の検査に加えて、「単文音読」の検査も行います。

【検査方法】

- ・単音連続読みに関しては11月と同様に実施
- ・単文音読では、3枚のカードを1枚ずつ順番に提示して読ませる
- ・単文音読の音読用シートおよび記録用紙は巻末（p. 157～）参照

【検査結果の処理と指導】

音読確認で基準に満たなかった児童（単音連続読み検査において未習得文字数が9個以上、音読時間が67秒以上。単文音読検査において音読時間の合計が35秒以上）に対して、タブレット端末のアプリを活用した音読支援の指導（1日5分の指導を21回）を行います。鳥取市では、約4%の児童が対象となりました。



<第3回 音読確認（再確認）：3月>

1月に音読支援の対象となった児童に対し、3月に再度、「音読確認」を行います。1月と同様に、「単音連続読み」と「単文音読」の検査を行い、指導の成果を確認します。基準に満たなかった児童の割合は、鳥取市では、約3%でした。

鳥取市では、そのうち保護者から同意を得られた児童を対象に、2年時に「語彙指導」を行いました。

<2年生児童対象の「語彙指導」>

鳥取市の小学校では、1年時の指導では十分に改善が得られなかった児童に対して、2年時に週1回45分を基本とする個別指導を行います。

【指導の目的】

- ・単語をまとまりで流暢に読む力を伸ばす
- ・語彙を増やす

【指導内容】

- ・国語の教科書に出てくる語句を使用した例文づくり
- ・単語の読み練習と意味の確認など

音読確認・音読支援のポイント

鳥取市教育センター作成の資料より

ひらがな音読確認のポイント！

- 1 読みの苦手な児童を早期発見・早期対応
 - ★全員が対象(見落とさない)
 - ★自尊感情が低下する前に支援を開始！
- 2 担任の主観データ+客観的なデータの取得
 - ★個々の児童の読みの見取りを確かに！
 - ★保護者への説明材料にも有効
→連携しやすくなる
- 3 グレーゾーンの児童に対する早期支援
 - ★学級全体の学力の底上げ

ひらがな音読支援のポイント！

- 1 「ひらがな音読支援」で伸びを実感！
 - ★誰が支援者となっても、同等の支援が受けられる。
 - ★何をどれだけやればよいか明確。
毎日、5分。「たかが5分」「されど5分」
(先行研究や鳥取市のここ2年の成果で立証)
 - ★記録が残る。(励みになる)
 - ★曖昧な文字を集中的に強化できる。
- 2 保護者と連携して取り組める。

平成27年度各校アンケート(44校)の結果より

音読確認は…

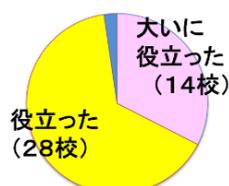
あまり役立たなかった(1校) ↓



役に立たなかった(0校)

音読支援(タブレット支援)は…

役に立たなかった(1校)



あまり役立たなかった(0校)



iPad

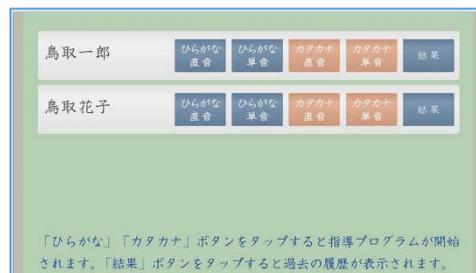
Android

「ディスレクシア音読指導アプリ 単音直音統合版」 鳥取大学

指導者や保護者が、お子さんと一緒にひらがなの音と文字を関連付ける練習をするために開発されたアプリです。1日1回5分の使用を想定しているつくりとなっているため、少しの時間でひらがなの音と文字を繋げる練習をするのに適しています。

使い方

- ・学習者の名前をアプリに登録します。
- ・学習するメニューを選びます。「直音」では、拗音が出題されません。「短音」では、拗音も出題されます。
- ・右のような画面が表示されて2秒後に、その文字の音声流れます。音声が出るまでに正しく読むことができた場合には「○」を、音声が出るまでに読めなかった場合、または間違えた場合には「×」をタップします。



- ・文字はランダムに出題されますが、通算で3回正答した文字は消去されていき出題されなくなります。上達すると5分より短くなっていきます。
- ・利用者の「結果」から詳細な学習履歴を確認することができます。
- ・インターネットに接続していなくても使用できます。
- ・登録者1名につき、1日1回のみ使用することができます。

- ・統合版をクリアした人のために、より難易度が高い「単語版ビギナー」「単語版 チャレンジャー」のアプリも公開されています。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) や Play ストア (Android) で、検索ワードに「ディスレクシア」と入力して検索すると表示されます。
- ・無料でダウンロードすることができ、アプリ内での課金もありません。(2017年現在)

小学1年～2年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ①

「キーワード法」を活用した指導

キーワード法とは？

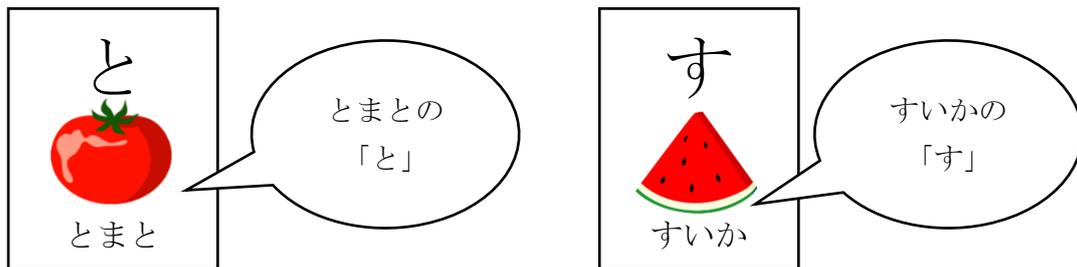
知的発達に遅れがないのに、平仮名の読み書きができない児童がいます。そのような児童には、頭の中で音を操作することに苦手さがあることが考えられます。つまり、音と文字を結びつける記憶に課題があるのです。平仮名の学習には、聴覚と視覚を結びつける文字学習の基盤と、一つ一つの音を記憶操作できる力が必要です。

キーワード法は、視覚と聴覚を結びつけるために、文字を絵に置き換えて意味づけして覚えていく学習法です。カードを用いた学習なので、遊び感覚で行える取り組みやすい教材です。

キーワード法の進め方

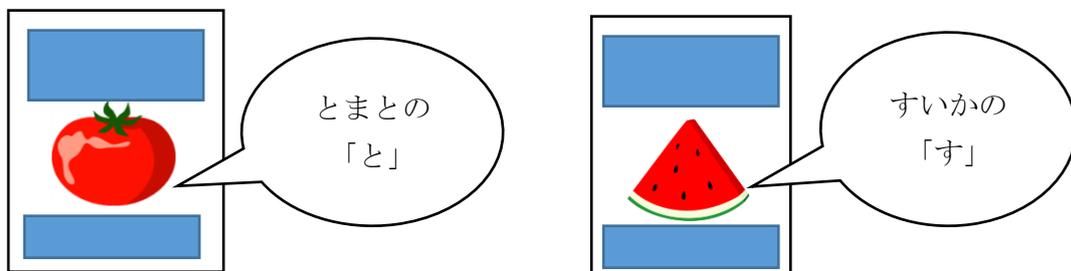
<STEP 1> 絵を見ながら復唱

絵を見ながら「とまとの『と』」や、「すいかの『す』」と復唱する。



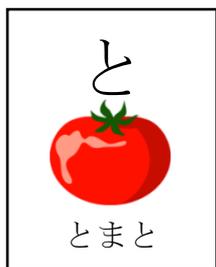
<STEP 2> 呼称(絵を見て名前を言う)

文字を隠し、絵だけを提示して「とまとの『と』」「すいかの『す』」と名前を言う。



<STEP 3> 聴覚的理解 (一文字を聞き, 絵を選択)

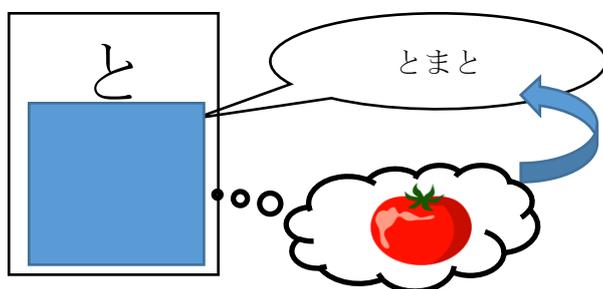
カードを複数提示し, 「す」という一文字を聞いて, 正しいカードを選ぶ。



*留意点①
本人になじみのある言葉を使用
特殊音節は使わない
間違えたカードは, 繰り返し学習する

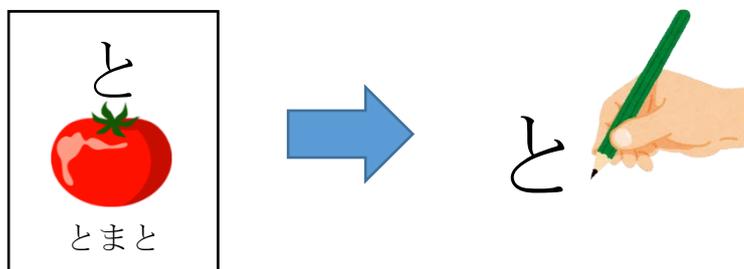
<STEP 4> 連合を作る (一文字を見て音・名前を想起)

「と」一文字を見て, 「とまと」と絵を思い出す。



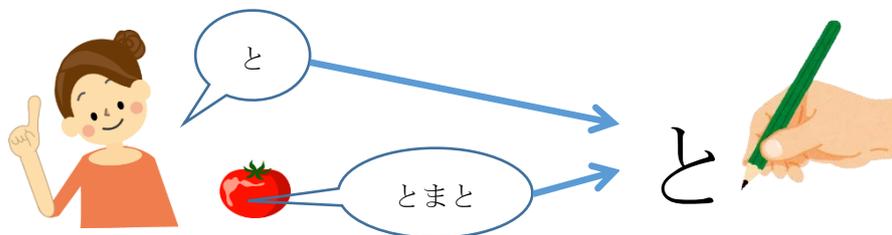
<STEP 5> 模写

カードを見ながら「と」を書く。



<STEP 6> 書取 (文字の想起)

音声で「と」と聞いたり, 実物を見たりして, 「と」と書く。



参考文献

梅田真理 編

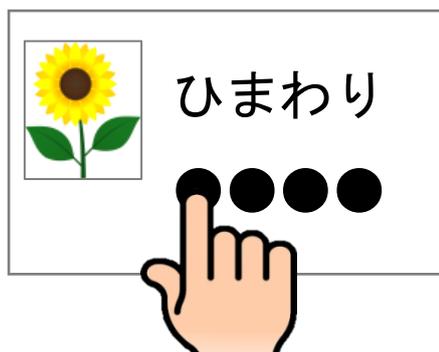
「CD-ROM 付き 特別支援教育をサポートする 読み・書き・計算指導事例集」ナツメ社

「キーワード法」に併用すると効果のある学習

一音一文字の音韻意識課題（モーラ分解，モーラ同定，モーラ抽出）を事前に行っておくと，さらに聴覚と視覚を結びつける文字学習の基盤を作ることにつながり，効果的です。

<音韻意識課題の例①> モーラ分解

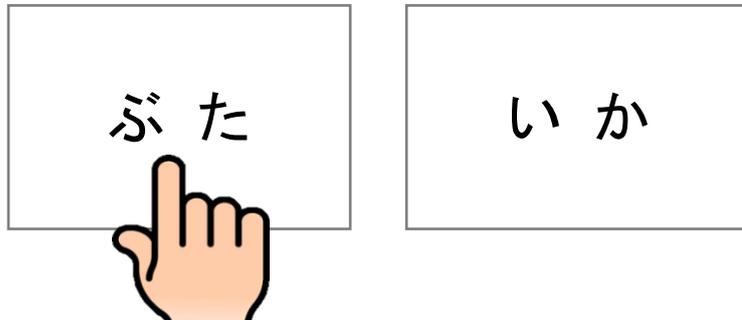
●の部分を押さえながら文字を読み，何文字あったか意識させる。



<音韻意識課題の例②> モーラ同定

複数のカードを提示し，「た」の字が入っているカードを選択させる。

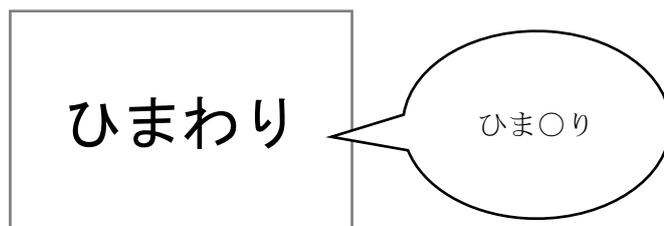
例：『た』が入っているのはどのカードですか」



<音韻意識課題の例③> モーラ抽出

一文字抜いて読む練習をする。

例：『わ』の文字だけは声を出さないようにして読んでみましょう」



小学1年～2年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ②

「50音表」を活用したひらがな指導（聴覚法）

対象となる児童

ひらがなの書き取りで、想起できない文字や、想起に時間がかかる文字がある児童への指導法です。聴覚的に音声言語の長期記憶力が良好、知能が正常、本人のひらがな、カタカナ、もしくは漢字を習得したいという強い意志がある、この3つの条件を満たした場合に、この指導が有用であると報告されています（宇野ら、2015、音声言語医学 56、171-179）。

目的・特徴

- ・読み・書きともに、一定期間連続して指導を行うことで、ひらがなの読み書きの正確性や流暢性に効果がある指導法です。
- ・50音表の書字練習では低学年、高学年別に制限時間を設けて実施します。スピードアップを図りながら指導することで、書字や音読の流暢性の改善にもつなげていきます。

使い方

- ① 「あかさたなはまやらわをん」を文字を見ないで一人で言えるようにする
- ② 「あ あいうえお あか かきくけこ
あかさ さしすせそ・・・・・・
あかさたなはまやら わおん」を何も見ないで一人で言えるようにする
- ③ 3日続けて50音表をスラスラ言えるまで練習する。次に「書き」の練習に移る。

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
を	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
ん	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え

書き

- ① 必ず「あ」から開始する。70～80%書けるところまでを練習の範囲とする
- ② 3日続けて正しく書けたら、次の70～80%かけるところまで書く（ただし、常に「あ」から開始する）
- ③ すべて書けたらスピードアップ、目安としては、低学年2分、高学年1分半以内1日にできれば4、5回練習する

必ず「あ」から開始

	ま	は	な	た	さ	か	あ
	み	ひ	に		し	き	い
				つ	す	く	う
		へ		て	せ	け	え
	も	ほ	の	と	そ	こ	お

■ は正しく書けなかった字

					さ	か	あ
					し	き	い
						く	う
					そ	こ	お

練習範囲

ポイント

- ・訓練的にならずに、お子さんの頑張りを認め褒めながら、意欲を持たせて取り組みましょう。

引用文献

宇野彰 春原則子 金子真人 TaekoN,Wydell (2017)「改訂版 標準 読み書きスクリーニング検査 一正確性と流暢性の評価」 pp32-36 , インテルナ出版

小学1年～2年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ③

「50音表」を手掛かりにした書字指導

対象となる児童

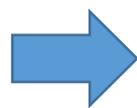
- ひらがな50音を読むことができ、手本を見ながら書くこともできるものの、想起して書くことが苦手な児童に有効です。

目的・特徴

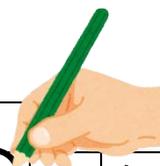
- 50音表があることで、書き取りに必要な文字を自分で確認したり想起したりすることができます。
- 確認しながら正しい字を書くことで、定着につなげていきます。

使い方

- ① イラストに合わせて表から文字を選び、丸を付ける。

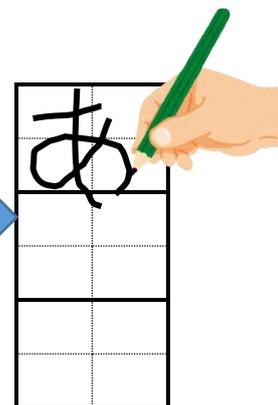
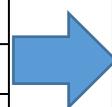


わ	ら	や	ま	は	に	ち	さ	か	あ
	り		み	ひ			し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お



- ② ○で囲んだ文字を手本に、マスにひらがなを書く。

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お



ポイント

使用するイラストは、対象児の好きなものや、身近なものから始めると取り組みやすいです。

引用文献

井上賞子・杉本陽子 著，小林倫世 監修「特別支援教育 はじめのいっぽ！ 国語のじかん」
学研教育みらい

小学1年～2年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ④

ひらがな、カタカナの指導に使えるアプリ紹介



「にほんご-ひらがな」 こどもアプリ

iPad

iPhone

Android

Windows

文字のなぞりで、正しい書き順と書き方を学習できます。

絵を見て単語構成を行う学習は、音韻分解の学習として活用できます。文字の音が繰り返されるので、文字と音の一致が苦手なお子さんに向いています。

使い方

- ・学習は「なぞり書き」、「文字並べ」、「かるた」の3つから選べます。

- ・「なぞり書き」は、黄色で示された部分を順番になぞることで、ひらがなを書くことができます。

- ・右側に表示されている「力試し」のマークをタッチすると、イラストと音声をヒントに文字を書く課題もできます。

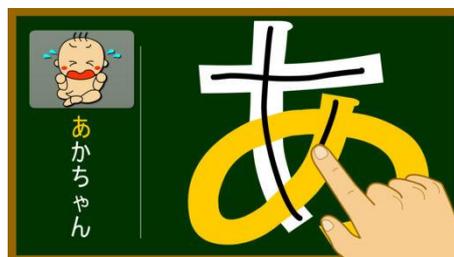
- ・「文字合わせ」は、上に表示されたイラストに合ったひらがなを順番にタッチするゲームです。

- ・「やさしい」「ふつう」「むずかしい」を選べます。

- ・「がんばり表」に実施回数が記録されるため、学習の蓄積を振り返ることもできます。

- ・インターネットに接続していなくても使用できます。

- ・同様の内容でカタカナの学習ができる「にほんご-カタカナ」アプリも公開されています。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) やPlay ストア (Android), Windows ストア (Windows) で、検索ワードに「にほんごひらがな」と入力して検索すると表示されます。

- ・無料でダウンロードでき、アプリ内での課金もありません。(2017年現在)

- ・紹介サイト <http://damemoto.lolipop.jp/damemoto/damemoto.php>



「ひらがなをおぼえよう！あいうえおにぎり」

iPad

iPhone

Android

Windows

Makorino

1 文字の問題では、文字の形を識別する学習ができるため、ひらがなの形を覚える段階の児童に活用できます。

2 文字からの問題は、語彙が少なく、単語をまとまりで読むことが苦手な児童に活用できます。また、音韻分解の学習にも活用できます。

使い方

- ・最初は一文字の問題からスタートします。
- ・一度クリアすると、次回からはクリアした文字数のマークがすべて表示されます。
- ・単音の問題は、上に表示された文字と同じひらがなをタッチする問題です。
- ・しばらくすると該当のひらがなが揺れてヒントを出してくれます。
- ・2文字の単語からは、上に表示されたイラストに合ったひらがなを、順番にタッチします。
- ・イラストを見て単語を構成する課題も出題されます。
- ・インターネットに接続していなくても使用できます。
- ・同様の内容でカタカナの学習ができる「カタカナをおぼえよう！アイウエオニギリ」アプリも公開されています。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) や Play ストア (Android) で、検索ワードに「あいうえおにぎり」と入力して検索すると表示されます。
- ・無料でダウンロードできます。広告を非表示にしたい場合は、インターネット環境に接続して課金をします。(2017年現在) 紹介サイト <http://makorino.com/>



「音韻認識力をはぐくむ！ ひらがなトレーニング」

iPad

明治図書出版株式会社

ひらがなの習得の基礎スキルとして、音への集中やモーラ感覚の向上をねらって作られたアプリです。拗音・促音が苦手な場合や、音韻意識に苦手さがある児童の学習に活用することができます。

使い方

- ・学習は以下の4つから選んで取り組むことができます。
- ・「しりとりあそび」は、単語の語頭音、語尾音を抽出するトレーニングです。しりつりの順で続く単語を選択肢の中から答えます。
- ・「おとのある・ないクイズ」は、単語の中に含まれる音の有無を判別するトレーニングです。長音や拗音の課題もあります。
- ・「いくつのおとかな」は、単語のモーラ数(拍数)を数えるトレーニングです。音の数だけ手のマークをタッチして答えます。
- ・「このおとどれだ」は、長音表記や拗音表記のときに使う文字を選ぶトレーニングです。○の中に入れる文字を選んで、長音や拗音の表記を完成させます。
- ・インターネットに接続していなくても使用できます。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) で、検索ワードに「ひらがなトレーニング」と入力すると表示されます。
- ・ダウンロードする際に720円かかりますが、アプリ内での課金はありません。(2017年現在)
- ・紹介サイト <https://www.meijitoshu.co.jp/app/kanatore/>

小学生～中学生

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ⑤

漢字の指導に使えるアプリ紹介



「常用漢字筆順辞典」 株式会社 NOWPRODUCTION

iPad

iPhone

Android

常用漢字の筆順を学習できるアプリです。

漢字の筆順が覚えられない、画数の多い漢字の構成が分かりにくい児童・生徒が、ノートに書く前に一度指でなぞることで、書字がスムーズになる効果が期待できます。

使い方

- ・確認したい漢字を手書き入力することで、簡単に検索できます（指導者が検索する必要があります）。
- ・左下に表示されている「筆順」のマークをクリックすると、一度全部の筆順が確認できます。
- ・筆順に沿って一画が赤く表示されます。赤く表示された一画をなぞると、次の一画が赤くなります。
- ・右上に表示されている「詳細」の文字をクリックすると、部首や習得学年、音読み、訓読み、漢字の活用例が示されます。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) や Play ストア (Android) で「漢字筆順」と入力して検索すると表示されます。
- ・アプリには通常版と無料版があります。無料版では広告が表示されますが、全ての機能を使用することができます。

iOS 版・・・通常版の「常用漢字筆順辞典」は 600 円、無料版は広告表示あり。

Android 版・・・通常版の「常用漢字筆順辞典」は 600 円、無料版「常用漢字筆順辞典 F R E E」は広告表示付きで無料。(2018 年現在)

- ・紹介サイト https://www.nowpro.co.jp/menu/products/iphone/hitsu_jyun/pc.html



「小学生手書き漢字ドリル1006」

iPad iPhone Android

学校ネット株式会社

指で漢字を書くアプリで、小学生の漢字の書きの学習ができます。学年と、練習したい漢字を選ぶことができます。家庭学習や個別学習におすすめです。

使い方

- ・学習したい学年を選びます。
学習したい漢字があるコースを選びます。(①)
- ・○に当てはまる漢字を指で書きます。分からないときは「答え」をタップすると、筆順付きで答えが出てきます。(②)



①



②

- ・中学生向けに「中学生漢字(手書き&読み方)ー高校受験漢字勉強アプリ」もあります。中学生用は読み方の学習もできます。また、志望する高校のレベルによって学習内容が決まっており、自分の漢字のレベルや受験したい高校のレベルに合わせてコースを選択します。このアプリには、**12歳以上の年齢制限があります。**



- ・学習したいレベルのコースを選びます。
書きコースは、小学生と同様です。
- ・読みコースは、ひらがなの選択肢の中から読みがなを選びます。分からないときは「答え」のマークをタップすると答えが出てきます。
- ・インターネット接続がなくても使用できます。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) やPlayストア (Android) で、「小学生手書き漢字ドリル」「中学生漢字」と入力して検索すると表示されます。
- ・開発元では、12歳未満の方の使用や学校内での利用時に、適当ではない場面で広告が表示されることのないようにするため、インターネット環境に接続して課金し、広告非表示にすることを勧めしています。(2017年現在)
- ・紹介サイト <https://www.gakko-net.co.jp/>



「小学生かんじ： ゆびドリル（書き順判定対応漢字学習アプリ）」

NEXTBOOK 株式会社

iPad

iPhone

Android

Windows

小学1年生から6年生が習う漢字 1,006 字のすべての書き取りや読み仮名を学年別に学習することができます。書字を嫌がる児童の個別指導や家庭学習でじっくり取り組むのに適しています。

使い方

- ・「練習」、「書き取り」、「読みがな」から学習したいコースを選びます。

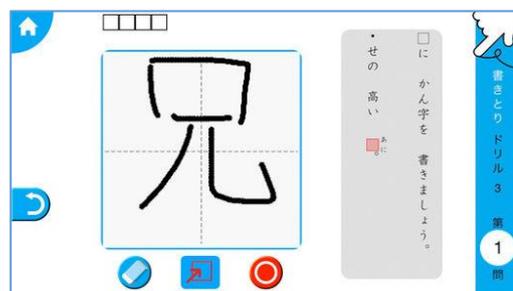


- ・「練習」は、自分で選んだ漢字の筆順の確認となぞり書きの練習ができます。



- ・「書き取り」「読みがな」は、「きそがため」「ちからだめし」の2つのコースから選びます。「きそがため」は4問、「ちからだめし」は20問の漢字を使った文が出てきます。「書き取り」は漢字を、「読みがな」は読みがなを書きます。

- ・問題中には、同じ部首の漢字（例：「弓」と「引く」、「刀」と「切る」）があり、関連付けて覚えやすいよう工夫されています。



- ・アプリ使用時には、インターネット接続環境が必要です。

検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) や Play ストア (Android) で、検索ワードに「小学生かんじゆびドリル」と入力して検索すると表示されます。
- ・無料でダウンロードできますが、アプリ内での課金があります。(2017年現在)
- ・紹介サイト <https://www.nxtbk.com/アプリ紹介/app-store/小学生向けアプリ/>



「小学生かんじⅡ：ゆびドリル」

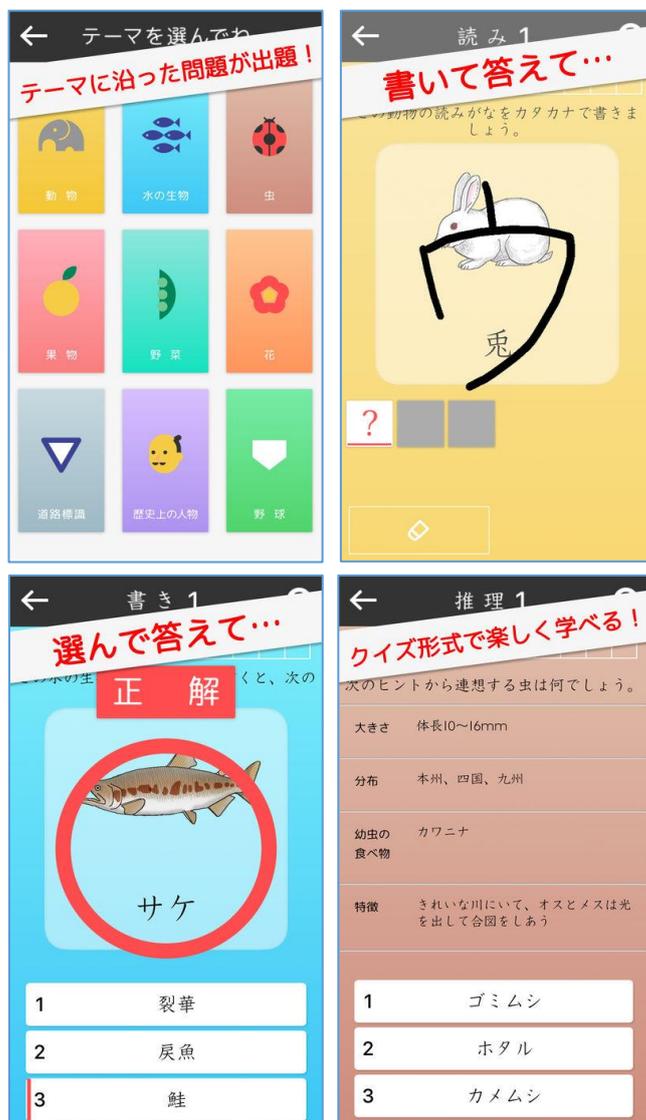
iPad iPhone Android

NEXTBOOK 株式会社

興味のあるテーマに沿って漢字の学習ができ、「読み」「書き」「推理」と多面的に漢字にアプローチできるため記憶の定着をサポートできるアプリです。扱われている漢字は、常用漢字の枠を超えた難しい漢字ですが、**選択肢から選ぶ方法**なので、読み書きが苦手でも難しい漢字に興味がある、特定のことに興味関心が深い、といった児童・生徒の学習に適しています。

使い方

- ・「動物」「水の生き物」など9つのテーマがあるので、学習したいテーマを選びます。
- ・漢字の読み方を、指で書いて答える「**読みタイプ**」は、読みがなを指で書きます。イラストが出てくるので、連想しやすいです。
- ・「**書きタイプ**」は、漢字で書くとどうなるか、3つの選択肢の中から選びます。
- ・「**推理タイプ**」は、提示されたヒントから連想する解答を3つの選択肢から選びます。読み書きというよりは、知的好奇心に働きかけるタイプです。
- ・得点によってメダルが貰える、メダルシステムが採用されています。メダルの数とそれぞれの取得率を成績表で確認できるため、継続性を高めます。
- ・アプリ使用時には、インターネット接続環境が必要です。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) やPlayストア (Android) で、検索ワードに「ゆびドリルⅡ」と入力して検索すると表示されます。
- ・無料でダウンロードできますが、アプリ内での課金があります。(2017年現在)



「小学漢字よみかたクイズ 1500問」

iPad

ミライエディケーション

小学校で習う漢字の読みかたを学習するアプリです。読みがなを指で書くのではなく、候補のひらがなの中から選ぶ方法で学習できるため、ひらがなの想起に時間がかかったり、書字に著しく困難があったりする児童に適しています。該当学年の漢字がランダムに10問ずつクイズ形式で出てきます。個別学習や家庭学習で、下学年の漢字学習をしたいときに活用することをおすすめします。

使い方

- ・学習したい学年の丸数字を選びます。丸数字にはそれぞれ10問ずつ問題があります。



- ・漢字の単語が出てくるので、読みがなを下の選択肢から一文字ずつ選びます。
- ・時間制限があり、時間内に選ばないと×になります。最初の文字から間違った時点で×になります。
- ・問題の正答率によって、「がんばろう」「もうすこし」などの評価が丸数字に印されます。再度同じ問題にチャレンジすることもできます。
- ・インターネットに接続していなくても使用できます。



検索・ダウンロード方法

- ・iOS デバイス用の App Store で、検索ワードに「小学生漢字よみかたクイズ」と入力して検索すると表示されます。
- ・無料でダウンロードできますが、アプリ内での課金があります。(2017年現在)
- ・紹介サイト <https://mirai.education/>



「国語海賊」 ファンタムスティック株式会社

iPad iPhone Android

1年生, 2年生の漢字の読みの学習ができます。選択肢の中から選ぶ方法で, ゲーム感覚で学習できます。低学年の国語の授業の導入や, 個別学習で, お楽しみの活用できます。

使い方

- 1つの漢字に対して, 3つの選択肢が出てきます。読みを選択肢から選びます。



- 間違えると, 確認できる画面が出て, 再チャレンジできます。



- ロールプレイ的に学習ができます。正解すると, カードやメダルが貰えるため, 低学年の児童は意欲的に学習できます。
- インターネットに接続していなくても使用できます。

検索・ダウンロード方法

- App Store (iOS) や Play ストア (Android) で, 検索ワードに「国語海賊」と入力して検索すると表示されます。
- 無料でダウンロードすることができます。(2017年現在)
- 紹介サイト <http://www.playstudygo.com/>

小学1年～6年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ⑥

小学校の国語教科書(光村図書)に準拠したアプリ紹介



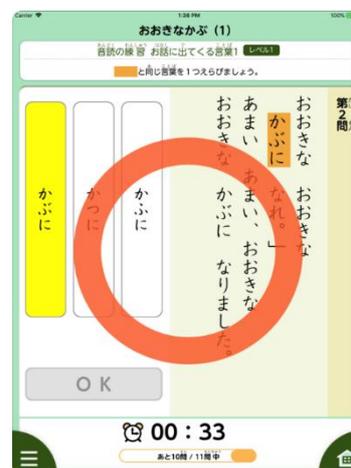
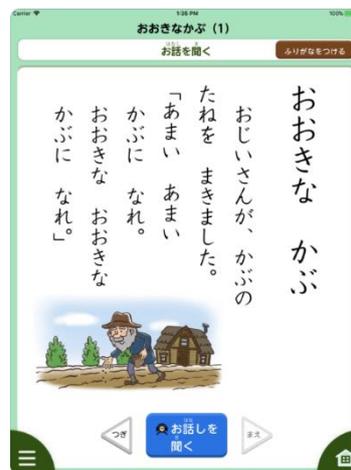
「読書力サポートアプリ」 NPO法人スマイル・プラネット

iPad

読書の苦手な小学生向けの「読み改善アプリ」です。国語の教科書に載っている教材が読めるようになるためのコンテンツが用意されています。学校で学習する前に取り組んでおくと、授業にすんなりと入ることができます。(国語教科書掲載作品 16 作品分を搭載) ※ iPad 専用アプリ

アプリの特長

- ① 教科書(光村図書)の代表作品で学習することができます。
 - 【1年】おおきなかぶ, くちばし, くじらぐも
 - 【2年】ふきのとう, たんぽぽのちえ
 - 【3年】きつつきの商売, すがたをかえる大豆, モチモチの木
 - 【4年】白いぼうし, ごんぎつね
 - 【5年】大造じいさんとガン, 千年の釘にいどむ,
 - 【6年】カレーライス, 『鳥獣戯画』を読む, 海の命
- ② 単語を視覚的に把握できます(単語読みの練習)。
- ③ 練習を通して音読の改善ができます。
- ④ 問題を解くことで, 文章の内容を把握することができます。



検索・ダウンロード方法

- ・App Store (iOS) で「読書力サポート」と入力して検索すると表示されます。
- ・アプリは無料です。広告も表示されません。(2018年現在)
- ・初回の起動時に新規アカウント登録が必要です。インストール後は, インターネット接続がなくても利用できます。紹介サイト <https://smileplanet.net/app/announcement.html>

関連情報

- ・マルチメディアデジ教科書(小1～小6, p.66 参照)や学習者用デジタル教科書(小3～小6, p.80 参照)には, 全ての単元のテキスト・音声データが収録されています。

アプリ等を探す際に参考となるWebサイト紹介

魔法のプロジェクト アプリレビュー

<https://maho-pr.j.org/app-def/S-101/service/modules/pico/>

学習に困難がある子どもたちに役立つアプリケーションの紹介を目的とした口コミ評価サイトです。アプリケーションを活用した事例については、魔法のプロジェクト実証研究校の先生方が作成した各年度の報告書が参考になります。



Kintaのブログ

<http://magicaltoybox.org/kinta/>

日本福祉大学の金森克浩先生のブログです。「iPad・iPhone 教育に役立つ(かもしれない)ソフトリスト」や「発達障害と iPad 利用について」などの記事があります。



NPO法人 支援機器普及促進協会

<http://npo-atds.org/>

理事長の高松崇先生が行った研修会・プレゼン資料にアプリの紹介がされているほか、アプリ操作マニュアルも掲載されています。



平林ルミのテクノロジーノート

<http://rumihibabayashi.com/>

東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野 特任助教である平林ルミ先生のブログです。発達障害・学習障害のある子どもたちのためのテクノロジー・ICTを使った新しい学び方を提案しています。



小学1年～6年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ⑧

スマイル式プレ漢字プリント

NPO法人 スマイル・プラネット の Webサイトより

<https://smileplanet.net/specialty/smilekanji/>

スマイル式プレ漢字プリントとは？

1年生のときには漢字の学習に積極的に取り組んでいた児童の中に、2年生になって、漢字の学習が苦手になり、意欲が低下する児童が出てきます。しかし、どんな児童であっても、適切な支援によって、学習を進めることは可能です。もし、漢字の学習が苦手であれば、無理やりにドリルで反復練習させるのではなく、その児童に合った他の手立てを考えてみるのが大切です。「スマイル式プレ漢字プリント」は、小学校で一般的に使われている漢字教材では学習が困難な児童を支援する目的で開発した教材です。プリントの内容は、東京学芸大学教授 小池敏英先生の研究に基づいています。児童の認知特性（得意・不得意）に合わせた内容のプリントを選べることで、これまでの教材にはない大きな特長です。

特長1. 小1～小6の光村図書出版・国語教科書の各単元に準拠している！

特長2. 多くの種類の中から、子どもが「自分に合ったプリント」を選べる！

特長3. インターネットのサイトから、プリントを **無料** で印刷できる！

入手方法

- ① Yahoo! や Google で「プレ漢字プリント」を検索。
- ② 「一認知特性別読み書き支援—スマイル式 プレ漢字プリント」を選択。
- ③ 「学年」と「単元名」を選択し、決定ボタンを押す（下の図参照）。
- ④ 子どもに合う種類のプリントを選んで表示し、印刷する。

学年を選択

教科書会社を選択

学習したい単元を選択

活用例

- ・単元に入る前の予習で「ひらがな読みプリント」を活用し、単元で使われているキーワードに慣れておく。
- ・通常の学級で出される漢字の宿題の代替として、自分に合う「漢字書字プリント」を活用する。
- ・通常の学級や通級指導教室、特別支援学級の教材として活用する。

利用者の声

- ・以前は、ノートに漢字の練習をする宿題が嫌いで、手をつけようとしなかったり、怒りながらやったりしていました。先生と話し合いをして「プレ漢字プリント」を漢字の宿題に置き換えてもらってからは、家に帰ると自分からすすんで漢字プリントをやるようになり、驚いています。パズル的で楽しく学習できるところがよいと思います。(保護者)
- ・通級による指導の時間に、新しい単元の予習として活用しています。言葉や漢字を探したり、パズルのように組み合わせたりするなど、ゲーム的な要素を多く含んでいるので、子どもは楽しみながら学習することができます。これだけの教材が無料で活用できることが、とてもありがたいです。(教員)



その他のプリントの紹介

<プレ漢字プリント【標準版】>

1枚のプリントで「一つの漢字」を学習するプレ漢字プリント【標準版】も用意されています。(現在は、小1～小3の配当漢字に対応)

<スマイル九九プリント>

2年生の子どもの中には、九九を記憶することがとても苦手だという子どももいます。このような九九の苦手の背景が、近年、分かってきました。この苦手の背景に対応した2つの支援が反映されたプリントを提供します。(webサイトより)



問合せ先

NPO法人スマイル・プラネット

TEL : 03-6327-1045 URL : <http://www.smileplanet.net/>

小学1年～中学3年

(3) 個別指導場面や家庭で活用できる教材や指導法 ㊟

「ミチムラ式漢字カード」による漢字指導(小1～中3)

(道村静江先生より下記の記載情報をご提供いただきました)

ミチムラ式漢字カードとは？

学年が上がるにつれて、漢字の量も増え、書くことも読むことも複雑になり、漢字の学習が苦手になる児童が出てきます。特に見て漢字を学習することが苦手だったり、何度間違いを指摘されても正確に書くことができなかつたりなど、学習障害の子どもにとっては、ドリルやノートで「書いて覚える」という反復練習はつらく、覚えることも困難です。そのような子どもたちには、道村静江先生が考えた「ミチムラ式漢字カード」を活用した学習法があります。

書くことに関しては、「漢字は組み合わせでできている」というしくみを利用して、過去に書けるようになった部分を利用して、かたまりごとに唱えて覚えるというものです。その部分は基本漢字やカタカナ、部首などからなり、小学3年までに学習したものがとても多いので、4年生以降の漢字習得がとても楽になります。また、使われている部分には必ず意味があり、それで漢字同士を関連付けたり、成り立ちや字がもつ意味まで学べたり、漢字本来の学習に結びついていきます。

読むことに関しては、「音読みをマスターすることが熟語読みにつながる」ということに着目して、新出漢字を学習する時から「音読み・訓読みセットで覚える」ことを提唱しています。漢字学習では書くことばかりに力点が置かれがちですが、これからの時代は選択の時代に入っていきます。書けることよりも絶対に「読める」ことが必要です。音読みをマスターして漢語の語彙を増やすことが、高学年から中学校以降の学習にとっても重要となります。

学習方法

ミチムラ式漢字カードは、漢字の形や読みを唱えて覚える学習方法です。友達や指導者・家族と一緒に唱えて、楽しくコミュニケーションしながら学べる方法です。

現在のカードは光村図書のH27年度版の新出順になっていますが、H30年度から始まる移行措置に対応したものになっています。H32年度の学年配当漢字が変更になる新指導要領実施に合わせた対応も行い、その時には光村図書以外の教科書配列カードも準備する予定です。

<表面>

上段：光村図書新出順番号、(五十音順番号)、【部首】

基本漢字(分解すると線の構成になってしまうような漢字)に(き)が付いている。

下段：漢字の組み合わせ方が示されている。初めて登場する基本漢字や部品は、書き順通りに書けるようにていねいに説明してあり、書けるようになったら部品名を覚える。

2年、3年で多くの部品が登場するので、それをしっかり覚えるようにします。4年以降は既習漢字やすでに登場した部品の組み合わせが多くなり、「口で言えれば、漢字は書ける」ようになります。



<裏面>

上段：音訓読みセットの「漢字のタイトル」です。音読みはカタカナ，訓読みはひらがなで
 区別し，送りがなはハイフンで区切ってあります。（1・2年はすべてひらがな）

- ・音読みには同音が多く，どの漢字かを明確に区別するためには，熟語を添えて説明することが大切です。多くの人に通じやすく，同音異義語がない熟語を選んであります。
- ・漢字の読み方のうち，音読みを新出漢字学習の時にセットで覚えることが，その後の言葉を増やすことに大いに役立ちます。

下段：3年生以降には，既習の同音漢字が書かれています。漢字の音読みはカ行・サ行が半数以上を占め，同音で混乱するので，常に既習漢字を思い出しながら学習できるようになっています。



参考情報

かんじクラウド株式会社 URL：<http://kanji.cloud>

価格(税込)：小学1年：378円 小学2～6年：各864円 小学校編6学年セット：4,500円

(学校または学年全体で取り組む場合は“特別団体割引”が適用されます。)

中学校編セット：3,672円

<参考図書>

道村静江著『口で言えれば漢字は書ける！盲学校から発信した漢字学習法』小学館（電子書籍）

道村静江著『全員参加！全員熱中！大盛り上がりの指導術

読み書きが苦手な子どもイキイキ唱えて覚える漢字指導法』明治図書出版



読み書きの困難さが著しい子どもへの支援

(p.26 のステップ2～3に該当する児童)

Aさんは小学2年生になって、漢字の宿題をととても嫌がるようになりました。何事にも一生懸命取り組むAさんは、宿題ができないことでストレスがたまり、登校しぶりもでてきました。宿題では漢字を一人で書くことができません。お母さんが薄く書いた字をなぞることで、何とか仕上げることができます。1年生の頃は、お姉ちゃんと一緒に宿題をしていました。漢字を見て書くことはできていましたが、2年生になり漢字の画数が多くなると、書字の困難さが目立つようになりました。本人も、画数の多い漢字は分からないと言っています。Aさんは、「この世から漢字なんてなくなってしまう方がいい」と言い、お母さんは、どうしたら漢字を楽しく学習できるのか悩んでいました。担任の先生によると、漢字だけではなく、特殊音節の表記や、文章の読みにも困難さがあるようです。

相談機関の職員が実施した音読検査では、漢字の読みはできていましたが、ひらがなの読みの流暢性と正確性、カタカナ・漢字の書字の正確性に困難さが見られました。また、WISC検査からは、言語理解が高いことが分かりました。

保護者を交えた支援会議では、低学年の今のうちに取り組みたい指導として、ひらがなの正確な読みを定着させることを目指すことになりました。朝学習の時間に無担の教員が「T式ひらがな音読支援」や「多層指導モデル MIM」による指導を実施することになりました。また、宿題の困難さを軽減し、意欲を高めるために、文章はお母さんが読み上げることにしました。また、宿題ができなくて登校をしぶったときは、学校で担任の先生と一緒にすることにしました。また、授業の中では、問題文を担当が一斉に読み上げて伝えたりするなどの工夫をすることにしました。楽しく漢字学習ができるように、得意な言語面を生かして、漢字は、意味づけをして教えることにしました。

お母さんは、本人の苦手さが分かり、気持ちが楽になったとのことでした。今後Aさんに合った学習法を探していきたいとのことで、医療機関の受診を希望されました。今、Aさんは、「T式ひらがな音読支援」は卒業しましたが、引き続き、朝学習の時間に無担の先生と苦手なことに取り組んでいます。半年が過ぎ、ひらがなを早く書けるようになってきました。苦手意識が強かったカタカナにも興味が出てきました。もともと、対人関係が良く、運動も得意なので、得意なところを生かしたり、苦手なことは友達に助けてもらったりしながら、教室でも生き生きと過ごすことができています。

小学生～高校生

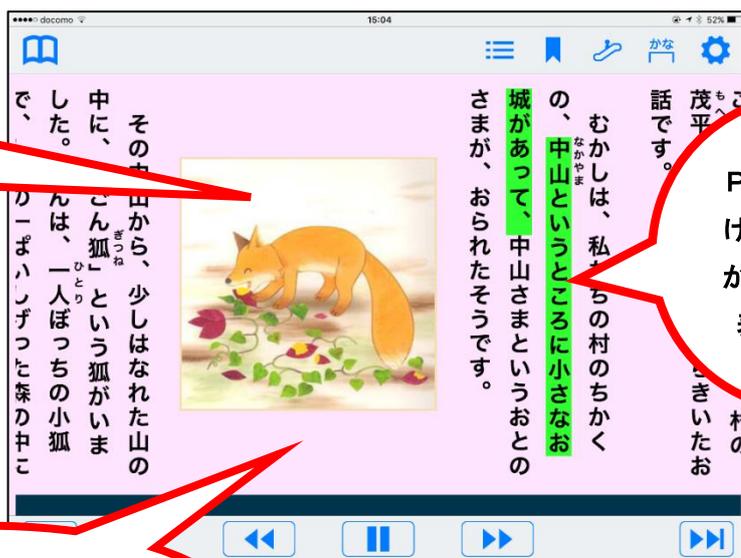
(4) 補助代替手段の活用 ①

デジタル化された教科書(マルチメディアデージー教科書)の活用

マルチメディアデージー教科書とは？

- ・パソコンやタブレット端末の画面に、通常の教科書と同じテキストと画像(図や写真、グラフなど)が表示され、ハイライトされたテキスト部分の朗読音声が生じます。

教科書と同じ
画像が表示さ
れる



PCが読み上
げている文章
がハイライト
表示される

視覚と聴覚の両方から
情報が入る

- ・小・中学校向けのデージー教科書は、(公財)日本障害者リハビリテーション協会が提供しています。通常の教科書では読むことが困難な児童・生徒は、デージー教科書を利用することができます。医学的診断は必要ありません。
- ・申請は、保護者、担任、通級指導担当、校長、教育委員会、支援者、本人などが行うことができます。申請フォーム(webサイト)から申請する方法と、申請書をプリントアウトしてFAXで申請する方法があります。申請は年度ごとに必要です。
- ・福井県内の各地区が採択している教科書(小学校:平成27年度～, 中学校:平成28年度～)については、小学校4教科, 中学校5教科すべてのデータが提供されています。
- ・費用は、webサイトからデージー教科書のデータをダウンロードして利用する場合、無料です。使用するにあたっては、パソコンやタブレット端末に再生用のソフトウェアを用意する必要があります。無料で提供されているものと、機能が充実した有料のものがあります。
- ・再生ソフトの機能により、文字の大きさや色、読み上げる速度を変更することができます。ルビ表示の有無や、縦書き・横書きを変更できるソフトもあります。
- ・教科書のデータをダウンロードするときには、パソコンやタブレット端末等がインターネットに接続している必要がありますが、ダウンロードをした後はオフラインで使用できます。

子どもに応じたデージー教科書の使い方

- ・ 音声を1回聴いたら音読1回とカウントするなど、音読の宿題の代替として利用する。
- ・ 通級指導や個別指導の時間に、音読練習や内容理解に活用する。
- ・ 自宅での予習でデージー教科書の朗読を聴き、単元の内容を予め頭に入れておく。
- ・ 音声を聴いて文節の切れ目を確認しながら、紙の教科書にスラッシュを書き込む。
- ・ 総ルビのデータを見て、読めない漢字のふりがなを自分で教科書に書き込む。

報告されている成果

- ・ 読むことへの抵抗感、苦手感、心理的負担が減った。
- ・ 読むことに関心、興味がでてきて文章の理解度が良くなった。
- ・ 以前は、文字を拾い読みしていたが、言葉の固まりとしてとらえられるようになった。
- ・ デージー教科書で予習をすることにより、音読がスムーズにできるようになり、みんなの前で読むことへの抵抗が減った。授業に自信をもって取り組むようになった。
- ・ 以前は、母親と一緒になければ予習ができなかったが、デージー教科書を使うことにより子ども一人で予習をすることができるようになった。

再生用ソフトウェアの紹介（一部）

- ① 「デージーポッド」(無料) **Windows**

http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext_pod.html



- ② 「イーリーダー」(¥3,000) **iPad** 無料で試用できる2分版もあります

<http://www.plextalk.com/jp/products/e-reader/>

対応 OS: iOS 7.0 以降。

主な機能: ルビ表示の On/Off 機能。複数使用者の本棚や設定を保存。



- ③ 「デージーポッド」(無料) **iPad iPhone iPod touch**

<https://itunes.apple.com/jp/app/dejipoddo/id1109664926?mt=8>

対応 OS: iOS 9.0 以降。



- ④ 「ボイス・オブ・デージー」(¥2,600) **Android**

対応 OS: Android 4.1~4.4 (注: Android 5.0 以降は未対応)

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.cypac.voda&hl=ja>



問合せ先

- ・ **福井県では県教育委員会が小・中学生の利用について一括申請をしています。** 利用したい場合は、福井県特別支援教育センター (0776-53-6574) までお問い合わせください。
- ・ (公財) 日本障害者リハビリテーション協会 情報センター デイジー教科書担当宛
Tel : 03-5273-0796 URL : <http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html>

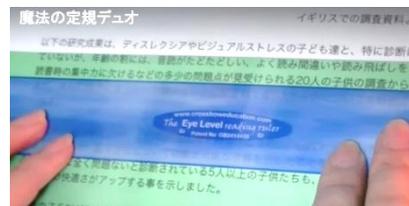
小学生～高校生

(4) 補助代替手段の活用 ②

「魔法の定規 (リーディングルーラー)」の活用

魔法の定規とは？

文字を読むことに負担を感じる方のためにイギリスで開発された、色のついたシートです。



実際に使用した例

取組の経過	ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きに苦手さがある児童の保護者、担任と支援会議を持つ。保護者から家庭での発言として、「字を読もうとすると文字の部品が動く。それを捕まえて読むのが大変。みんなはすごい。あんな読みにくいものをすらすら読むなんて」との発言があったことを確認する。 ・知能検査 (WISC-4) および読み書きに関するアセスメントを実施する。知的発達水準は平均域だが、読みの正確性と流暢性、聴写の正確性に苦手さが認められる。 ・視知覚の検査として WAVES を実施。視覚認知に苦手分野があることが分かる。 ・「文字の部品が動く」という本人の訴えに対応するために、「魔法の定規」を試用する。本児はスリットとしても活用できるタイプの薄緑色を最も見やすいと選ぶ。 ・担任が指示した、まだ学習していない単元の文章を「魔法の定規」を使って読む。間違わずに流暢に読めることに担任が驚く。次に「魔法の定規」が無い状態で読んでもらうと、読みのスピードが落ち、文章の語尾が勝手読みになる。 ・保護者は児童の国語の教科書に収納用のポケットを作り、音読の際は常に利用するようになる。 ・担任は、他の児童に対して説明し、自分も試してみたいという児童がいれば応じると伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が動いて読みにくいという主訴から視覚認知面の問題が想定される。 ・基本のアセスメントに加え、視覚認知のアセスメントを実施。 ・初見の文章で試用する。ツールが無い状態とも比較する。 ・ツールは家庭で購入してもらう。 ・他の児童への配慮。

参考情報

日本の総輸入元 : Unique Education Planning

日本総代理店名 : クロスボウ (CROSSBOW JAPAN) <http://www.crossbow-japan.com/>

商品名 : 「魔法の定規 デュオ」

定価 : 1枚 ¥702 (税込), 5色パック ¥3,240 (税込)

小学1年～6年

(4) 補助代替手段の活用 ③

「わくわく算数教科書ノート(啓林館)」の活用

啓林館の web サイトより <https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/text/sho/index.html>

わくわく算数教科書ノートとは？

書くことが苦手な児童は、ノートに問題や計算式を写すことに時間を使うため、答えを考えるまでに疲れてしまい、結局何も解答することができない場合があります。また、ノートのどこに何をどのように書けばよいのかがわからないことで学習に対する意欲が下がることも考えられます。

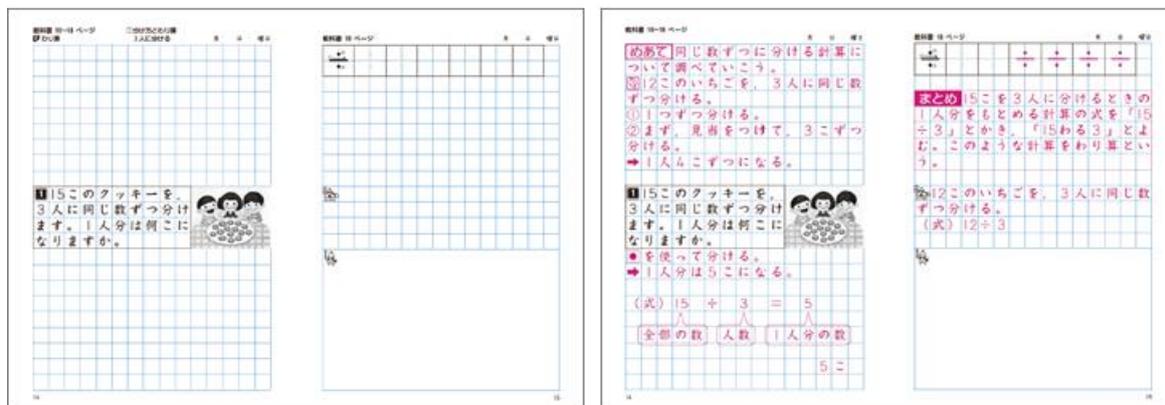
このノートは教科書の問題や図形が書かれているので、問題を写したり図形を書いたりする負担が少なく、教科書とノートを併用する必要もありません。また、マス目が大きく取られており、字形が乱れる児童にも記入もしやすくなっています。

この「わくわく算数教科書ノート」は本来、ノートの作り方を基礎からガイドすることで、算数の思考力や表現力が豊かになるよう作られたノートですが、書くことが苦手な児童にとっても、大変使いやすいノートです。

特長

(児童用)

(教師用)



自由に書き込めるスペースが十分にあります。そのため児童一人ひとりが問題解決のために主体的に書き込めます。また、ノート各ページ左上には、教科書の対応しているページが記載されています。さらに教師用朱註には、教科書該当ページの板書例を全ページにわたって紹介しています。

入手先

福井県教科書供給所、または教科書取扱書店で注文すると入手できます。

1年生～6年生まで、各学年3分冊となっています。定価：各300円(税別)

※ 福井県内各地区の教科書採択状況の確認 → <http://www.text-fukui.co.jp/saitaku/index.html>

(5) 事例紹介

ここでは、県内の学校における小学校低学年
の実践事例を紹介します。

※ 個人や学校が特定されないよう
に、脚色を加えています。

本書に掲載されている事例の扱いについて

合理的配慮とは、特別な支援を必要とする児童生徒等の障害の程度や特性等を踏まえて、学校の設置者および学校が必要かつ適当な変更・調整を個別に行うことで、学校の設置者および学校に対して体制面および財政面における均衡を失した又は過度の負担を課さないものとされています。

地域・学校における基礎的環境整備についても様々です。**本パッケージに掲載されている事例は各学校の設置者および学校が合理的配慮を検討する際の参考情報の一つ**です。掲載されている事例と**類似のケースであったとしても、学校で合理的配慮を検討する際には、本人・保護者の意向をふまえた上で各学校の設置者および学校が個別に判断し、合意形成を図ることが重要**です。(p.9~19「合理的配慮について」参照)

小学1年～2年

(5) 事例紹介

読み書きの指導と課題量の軽減

対象児の実態

- ・ 2年生男児。園では問題がなかったが、入学後、宿題ができずに癩癩を起したり、登校しぶりをしたりするようになった。
- ・ 2年生6月時の検査では、知的な遅れはなかったが、読み書きでつまずきが見られた。

取組の経過

- ・ 保護者を交えた支援会議（夏休みの家庭での支援について）
→ 家庭ではタブレットでT式ひらがな音読支援アプリ（以下、T式）に取り組む。夏休みの宿題をスマイル式プレ漢字プリント（以下、スマイル式）に変更する。
- ・ 学校で現職教育（読み書きにつまずきのある子どもへの支援についての事例検討）を実施。
- ・ T式、スマイル式を用いた結果、ひらがなの読み間違いがなくなり、正確に書ける漢字が増えてきた。しかし、宿題を嫌がる様子は変わらず。
- ・ 医療機関で学習障害と診断される。
- ・ 保護者を交えた支援会議（今後の学校、家庭での支援）
→ 書字の負担を軽減させ、学びの本質的な部分を保障する（例：計算問題は教師が代筆、本人は答えを書くだけに絞る）。音読の宿題は母親が代読、漢字の宿題はスマイル式に置き換えることを継続。
→ 本人の様子や変化の共有。本人の困りに早期に対応したり、がんばりを認めたりするために連絡帳を活用する。
- ・ 2学期以降の支援を個別の指導（支援）計画に記載し、定期的に支援の状況を確認する。
- ・ 保護者を交えた支援会議（来年度に向けて）
→ ワープロ活用など代替手段の検討を提案。

ポイント

- ・ 有効な配慮や支援方法は一人ひとり異なるため、家庭と連携しながら、本児にとって有効な配慮や支援方法について試行錯誤を行う。
- ・ 配慮や支援については、校内で周知し、共通理解を図ることが必要。
- ・ 本人の思いや保護者の願いを確認しながら進める。
- ・ 個別の指導（支援）計画へ記載する。

取組の成果

- ・ ひらがなの読み間違いが減り、正しく書ける漢字が増えた。
- ・ 家庭と学校が共通理解し、学びの本質は保障しながら、課題量や書きの負担の軽減を図ることができた。
- ・ 個別の指導（支援）計画を作成することで、読み書きに関する合理的配慮だけでなく、本人の得意な面へのアプローチの大切さも共有できた。
- ・ 本人の支援が進むと保護者の困りが軽減した。母子関係が改善した。

※ 詳細は当センター発行「平成28年度 研究紀要 第34号」39～46ページをご覧ください。